

## 訪問看護課

在宅サービス事業部訪問看護課は、1997年10月にスタートした介護保険指定訪問看護ステーションです。介護保険の認定を受けられている方はもちろんですが、その他医療保険対象の方も医師の指示書があれば、看護師や理学療法士（PT）が自宅に訪問しその方らしい生活が送れるように生活の場にあった看護ケアやリハビリを行っています。

当課には看護師の他、PTが配置されており、PTが立てたりリハビリメニューをもとに看護師とチームになり日々のリハビリを実践し、かつ評価を行いながら身体機能の向上に取り組んでいます。

看護師、PTが各々の立場や専門性を活かした質の高いケアが、ご利用者様に届くように体制を整えております。また、地域の医療機関や他事業所と連携を図り、病状の急変や医療依存度の高い方でも安心して過ごせるように支援していきます。

今後とも地域の方の生命を尊重し、ご利用者様に寄り添ったサービス事業所を目指します。



スタッフ全員です

## 介護課（ヨハネ館）

特養事業部ヨハネ館介護課は、在宅での生活が困難な方が施設で過ごすなかで、生活のサポートを行う職場です。ヨハネ館は2007年に新築された40部屋

全室個室の新型特養です。ここで提供するサービスは、食事・入浴・排泄などの基本的な介護サービスに加え、コミュニケーション・行事・アクティビティ（活動）支援などを通し、人間が人間らしく生活し、楽しみや希望を持って頂けるようなサービスの提供に努めています。

ご利用者の24時間継続したケアを他職種（看護師・セラピスト（リハビリ従事者）・相談員）と連携をとり、様々な視点から支援しています。いずれの園では10年前より、ユニットケアに取り組み、寄り添い、寄り添われるケアを目指し、ユニット毎に馴染みの人間関係を構築する努力をしています。

ご利用者がより快適で安全・安心な生活が送れるように感染症などにも配慮しています。利用者のQOLの向上、質の高いケアを目指し、介護職員のスキルアップにも取り組んでいます。

私たちは、ご利用者お一人おひとりのニーズや想い、願いを形にできるように、これからもスタッフ一丸となって前進していきます。



介護スタッフです

## ひとり暮らし高齢者 安心ネットワーク構築事業開始

この事業は大分県からの委託事業で、中津市が実施主体となり、中津市地域包括支援センターいずみの園が受託したモデル事業です。

この事業の目的は、高齢者の所在不明や無縁社会の広がりが社会問題となる中で、ひとり暮らし高齢者等の実態調査を行い、地域包括支援センターが中心となって高齢者の状況やニーズに応じた情報提供や見守りの支援を行う地域モデルを構築していくものです。そして、その成果を大分県下に広げて行き、高齢者が地域の中でいつまでも安心して暮らし続けることができる地域の実現を図ることを目的としています。



担当の伊藤・渡辺

このモデル事業の3つの事業内容を具体的にいえば

①ひとり暮らし高齢者実態調査  
生活状況や地域との関わり等から

高齢者個々のニーズの把握を行います。

②地域連携強化  
地域で高齢者に関わる人々と連携して見守り等の

支援を行います。また、そのためのネットワークの構築と強化のための会議等を行います。

③ICT等を活用した情報提供  
ICT（電気通信事業者等）のメールサービス等

や民間サービス（郵便・新聞配達等事業者）を利用して行う情報提供や見守り事業です。

このモデル事業は2011年7月～2013年3月まで（ひとり暮らし高齢者実態調査は2012年3月まで）行います。

中津市地域包括支援センターいずみの園は担当校区である今津校区、大幡校区、如水校区で実施いたします。（在宅サービス事業部）



# 三法人合同研修を開催して

6月11、12日、当法人の理事長が社会福祉法人栄光園の理事長も兼ね、また佐賀キリスト教事業団の理事でもある関係から、この三法人の幹部職員がキリスト教社会福祉社について合同で研修を行い、その実践に役立てるとともに、相互の職員の交流を図るため、中津市内のホテルで50人が集まり研修を行いました。多田一三理事長の「一堂に会することは初めての事であり、大変喜ばしい。皆が力を合わせて前に進んでいこう」との挨拶の後、滝口真西九州大学教授の講演「キリスト教社会福祉実践の理念」がありました。また、各法人の概要や事業内容も各施設長から紹介され参加者は熱心に聞き入っていました。

翌日はいずみの園と、法人が経営するグレース保育園を見学し、時間を超過するほど真剣に見て、聞いて、歩きました。このような機会をまた角度を変えて行いたいものです。

(法人本部事務局)



# 消火訓練を実施しました

いずみの園では毎年1回、中津市消防本部のご指導のもと新任職員や消火器使用未経験者を優先して総合防災訓練を実施しています。今年度は東日本大震災から約50日過ぎた4月28日(木)に行いました。

消火訓練は、消火器を使用して実物の感覚や実際に廃材を燃やして火点に対しての消火器の有効性の体感を目的とし、消防署員からは消火器使用方法として「ピッコオ」(ピ：ピンを抜く、ノ：ノズルを持ち火元に向ける、キ：(火点との)距離をとる、オ：(レバーを)押す)や消火は背部に出口を確保して行う事などのご指導を頂きました。

参加者は消火器の噴霧の勢いや意外に短い噴霧時間を経験し、実際に火災が起きた場合の心構えと必要性を再認識しました。

いずみの園では15年前より災害時に備えた体制づくりに力をいれており、また東日本大震災での教訓を念頭に消火訓練の他、防災時のマニュアル整備や防災機器の整備、防災食の備蓄など、ご利用者の安全・安心の確保のため普段から緊張感を持って準備をしています。

(防災委員会委員長 市川朋克)

## 実習生の感想から

### いずみの園での看護実習を通して学んだこと



中津フアビオラ看護学校  
看護学科 15回生 38番 横山 幸恵

今回、いずみの園での実習で、私は2日間、特別養護老人ホームのヨハネ館3番地で実習させていただきました。入所者の方の食事介助やコミュニケーションを図らせ

## 口腔ケアの重要性について



特養事業部リハビリ課  
歯科衛生士 江利 真実



いずみの園に勤務し、もうすぐ4年になります。私は以前歯科診療所で仕事をしていたのですが、いずみの園に来て口腔ケアに対する意識が大きく変わりました。診療所の場合、治療が終われば口腔ケアは毎日のセルフケアでいい、口腔の衛生を管理してもらいます。しかし、私が在籍している特養の方のほとんどはセルフケアが難しく、介助者の助けが必要です。高齢者はADL(日常生活動作)や自立度の低下から、口腔の衛生状態が低下しがちで虫歯や歯周病などの歯周疾患にかかりやすくなります。また、口腔内の細菌を誤嚥し肺炎を起こす事もあります。口腔内の衛生を保つ事は、歯や歯肉だけでなく全身の疾病と密接な関係があり、健康維持・増進のためにも口腔ケアはとても大切です。「清潔な口腔は健康のバースポート」と言えます。

※口腔ケアとは「口腔清掃、歯石の除去、義歯の調整・修理・手入れ、簡単な治療などにより口腔の疾病予防・機能回復・健康の保持増進、更にQOLの向上を目指す技術」です。

1. 誤嚥性肺炎の予防
2. 口腔疾病の予防
3. QOL (Quality of Life) の向上が考えられます。

ていただきました。その中で感じたことは、入所者一人ひとりの方のそれまでの生活背景を大切に、その人の生活リズムに合わせ、個性やプライバシーに配慮して生活が送れるように援助や介護がなされているということです。

2日目のカンファレンスの助言で、入所者の方々にとって施設は生活の場であること、居場所であるということを感じました。それを聞いて、病院といずみの園という施設での大きな違いは、生活の場か、治療の場か、というところにあると感じました。

私は普段、病院実習がほとんどで、治療を必要としている人々と接する機会が多く、施設に入所されている方に対しては何か疾病を抱えており、治療をしているという感覚を持ってしまいます。

施設入所の方は、施設が自宅と同じであるため、少しでも快適に過ごせるよう家庭的な雰囲気を提供し、個室はあくまでも入所者個人の空間(家)であり、その家の中に看護師や介護者が居るという環境であることを学びました。

その環境を確保するためにユニットケアというシステムを用いて、各ユニットに一定の決まった介護職員の方が配置されており、生活する入所者の日常生活援助を行い、家庭的な関わりを行っています。

入所者の方は介護度の高い方が多いため、日々の健康管理や、食事摂取状況の把握につとめ、さらに脱水や便秘を起こしやすいことから、水分摂取量や食物繊維の摂取についても管理されており、高齢者を対象とした健康管理の特徴であると学びました。検査結果、食事摂取状況、行った援助の状況などの情報はパソコンで集中管理されており、看護師がそれらのデータを基に入所者の健康管理を総合的に行い、必要な助言や指導を介護者に行います。自宅で生活できない高齢者に対していかにその人らしく施設で生活できるよう関わらなければならないかを考えさせられました。

今後は、高齢者の特徴だけでなく、その人の身体的、精神的特徴を理解して援助を行っていきたいと思います。更に、病院ではどうしても看護師が優位な立場となりがちになり、入院患者が言いたいことが言いえないような雰囲気になってしまっています。いずみの園のようなスタッフと入所者の関わり方は今後の病院での看護に必要なのではないかと思います。今回の学びを今後活かしていきたいと思



# 栄光園ファミリークラブ

「いずみの園だより」の前号・51号（いずみの園ホームページにも掲載）におきまして栄光園ファミリークラブが発足したとお知らせしましたが、本年7月



31日現在で166人の職員の方（毎月304口の献金・1口300円）に賛同いただきました。この中には当法人の経営する保育園の職員の方も含まれています。

これでおおむね来年の3月末には100万円を超える奨学資金が集まることになり、児童養護施設 栄光園（社会福祉法人 栄光園理事長・多田一三先生は当法人の九州キリスト教社会福祉事業団の理事長でもあります）の卒業生に自立に役立ってもらえると思っています。タイガーマスク現象が一時の流行にならないよう、地道な支援をしていきます。

（法人本部事務局）

# チャブレン通信



カウンセラー室 堤 健生

「すがた」

「人は目にうつることを見るが、主は心によって見る」

旧約聖書1サムエル記16・7

ご利用者から「どちらの国の方ですか」と今まで2回も尋ねられました。私は外国人に見えるのか？関西なまりで話すのでおかしな日本語なのか？と不思議に思っていました。どうやらそれは普段着ている服がカトリック教会の神父さんの服であるから、外国人に思われたのだと気づきました。神父さんは外国の方が多いためです。

これには笑ってしまいました。思うに人は外見で判断されることが多いものです。相手の人のどこに焦点が合うかによって、その人のイメージが決まってしまう。やさしい人、自分を受け入れてくれる人、怖い人怒る人…。外見も大切そしてその内側のこころも大切ですね。

シリーズ第2回

## 『ワークライフバランス』を知っていますか？

ワークライフバランス（以下、「WLB」といいます。）施策導入の目的は…。

経験者積んだ優秀な人材を採用、定着することが大きな目標で、働きやすい職場づくりにより職員の能力を最大限に引き出し、さらに成長することを目的にしています。

- ① 環境の提供…働きやすく、明るく楽しい職場環境
- ② いきいきと働く…やる気を持ってもらう
- ③ モチベーション…士気をあげる
- ④ 保有能力の発揮…個人の能力を最大限に
- ⑤ 自律と成長…自己を律しながら成長

### WLB施策導入の効果

2006年に内閣府が行った「子育て支援導入効果報告書」では、女性職員の定着率の向上や意欲向上だけでなく、既婚男性や独身男女も「仕事の満足度」が高いということが明らかになっています。さらに「働きやすい、安心して働ける、余裕を持って働ける」という職員の声や会社への「忠誠心」の向上などです。また、「業務の改善」の効果も挙げられています。つまり、実際にWLBを推進している企業は、結果的に会社の業績向上につながることを確信しているというのです。

### WLB施策の内容と分類

#### ワークライフバランス施策の類型

休業制度	育児休業 介護休業 休職者の復帰支援
休暇制度	看護休暇 配偶者出産休暇 年次有給休暇の積立制度
働く時間の見直し	勤務時間のフレキシビリティ（フレックスタイム制度/就業時間の繰り上げ・繰り下げ） 短時間勤務制度 長時間勤務の見直し
働く場所の見直し	勤務場所のフレキシビリティ（在宅勤務制度/サテライトオフィス制度） 転勤の限定
その他	経済的支援 事業所内保育施設 再雇用制度 情報提供・相談窓口の設置

出所：内閣府政策統括官（共生社会政策担当）『少子化社会対策に関する先進的取組事例研究報告書』内閣府、2006年。

### WLBの重要なキーワード

WLBのキーワードは「柔軟性の確保」にあります。一般的に言われていることは、働き場所や時間、働き方について従来の仕事のスタイルややり方を見直しつつ、規模や資源、繁忙とあきらめず、職員の声を吸い上げながらできることから取り組むことが必要です。

\*出典：ミネルヴァ書房発行「ワークライフバランス入門」

## 編/集/後/記

### メジロの眼

昔、農村地帯では、9月1日（旧暦8月1日）を「八朔（はっさく）」といい、その日に餅を食べる習慣があり、それまで許されていた風習がもつてなくなり、その日から田の仕事を精を出すこととされたそう。そればかりか、その日から夜なべを始めるのが常とされたという。



戸川・志摩・未延・岩尾・白木原・加木（広報委員会全メンバー）

年度の後半に向かって人間世界は忙しくなり、メジロのように陽が昇れば目が覚め、沈めば眠る、そういう生活が一番の節電ですが、もつ戻れない？

## OPENしました!

### 売店『えがおや』

6月1日（水）いずみの園本館（中津市永添）内に売店『えがおや』がオープンしました。



お弁当やお菓子、日用品、お花、衣類など豊富に取り揃えています。

7月下旬よりアイスクリームの販売を始め、またクリーニングの受付も始めました。売店に置いていないものもお取り寄せしますので、お気軽にお申し付け下さい

◆営業時間は平日10:30～15:00。土曜日、日曜日は11:00～14:00です。

### レストラン『ベエルシバ』

7月15日（金）いずみの園（中津市永添）敷地内にレストラン『ベエルシバ』が委託業者の方によりオープンしました。（ホームページでも掲示）



◆施設利用者の方やそのご家族、お客様、地元の方および職員を対象に、軽食や喫茶を平日10:15から16:00まで（11:15～12:30は事業所の利用のため休憩）営業しています。

◆メニューは、飲み物類は100円、デザート類100円～150円、食事は300円～400円と低価格で提供しています。

「いずみの園」にご来園の際は是非ご利用下さい。

# 稲益開楽園様より植木を寄贈して頂きました



いずみの園の近隣、中津市永添にある稲益開楽園様より4月12日(火)、植木(カイズカイブキ)2本を寄贈して頂きました。

2本の木は双方とも3mを超える立派な木で、それぞれ特養ヨハネ館の中庭と、特養さぼろ館リハビリコーナーの外側に植樹されました。

7月6日に稲益開楽園のご家族である稲益九重様(写真)が来園され、施設長と懇談されました。稲益様からは度々のご奉仕を頂いており、紙面を借りてお礼申し上げます。(総務部)

## 鯨井中津市副市長が いずみの園に来園されました



7月22日(金)の午前中に中津市の鯨井副市長がいずみの園の施設を見学されました。

いずみの園は市内の蛸瀬地域に「高齢者・障がい者・児童」が安心して暮らせるようにデイサービスをはじめ7つの福祉サービス事業を展開しています。その事業を統括して「いずみの園かきざサポートセンター」と称し地域の方々と協働して事業所の役割を果たしています。その事業の中で2010年7月に開設した小規模多機能居宅介護施設「寄り合いセンターいずみ」と併設する「かきざグループホーム」を中心に見学されました。特に小規模多機能居宅介護施設は中津市でまだ一ヶ所しかなく、ご利用者やご家族から大変支持されている新しい取組みであることを報告いたしました。

その後、永添の夜間対応型訪問介護「いずみの園コールセンター」を見学されました。この事業はご利用者からの通報により24時間の随時の訪問と定期巡回を組み合わせた新しいサービスで、高齢者が住み慣れた地域で24時間365日安全に安心して過ごすことが出来るように2010年4月に開始した事業です。

副市長はこの事業にも大変関心を示され(写真)、ご利用者宅に設置しているケアコール端末器と同様のデモ機器で緊急コールを鳴らしオペレーションシステムの作動状況や対応方法を体験されました。さらに1年3ヶ月の利用実績を閲覧され、現場のヘルパー職員にも質問し、今後さらに真摯に取り組み、発展するようにエールを頂きました。(写真)



## 上ノ原 いずみの園

### 慰霊盆踊り 新貝市長ご夫妻も輪に

いずみの園が掲げる理念の中に「ローカルティ」(地域主義)があります。地元永添上ノ原地区の皆様との関わりを深めるため、毎年8月16日に合同で慰霊盆踊りを行います。初盆の方を慰霊し、地区の方、入所者、職員が一つの輪になって踊りました。

開会后、上ノ原出身の新貝市長ご夫妻もお見えになりました。職員はみんな浴衣なので、とても華やいだ雰囲気。音頭に合わせて手拍子を打つお年寄り、お菓子をもらってごきげんな子どもたち、格好よく踊る若者、暗くなるほどにぎやかに、フィナーレはお楽しみ抽選会と花火で盛り上がりました。一体感が生まれ、地元の皆様に支えられている幸せを感じるひとときでした。

みんなで楽しめる行事があるのは「地域力」がある証です。これからも地域の福祉の拠点としての役割を果たしていきたいです。(ケアマン ション 聖愛ホーム)



## いずみの園

### 新任職員歓迎会が 開催されました

4月28日(木)、中津市内にあるホテルで、いずみの園に昨年12月10日以降採用された新任職員歓迎会が開催され、多田三理事長をはじめ、235名(当日業務に当たる人を除く)の職員が参加しました。

開催に先立ち、専永施設長より「創設当時の苦労や想いに立ち返って、これからの10年、20年を考えて行くことが大切。もう一度原点に返ってケアを見直したい。新人は宝であり、職員の皆さんは30人の新人を、次の時代を担う人材に育てて頂きたい。」との挨拶がありました。

その後、聖愛ホーム袖澗ホーム長の乾杯の発声により会が始まり、カラオケ大会や、新任職員の出し物があり、新任職員との交流が図られました。

(いずみ会事務局)

